

映画「夫婦善哉」

白黒スタンダード 35 ミリ映写

1955年（昭30年）／東宝／121分・原作・織田作之助
監督・豊田四郎／脚本・八住利雄／撮影・三浦光雄／美術・伊藤熹朔／音楽・団伊玖磨
出演・森繁久彌・淡島千景・司葉子・浪花千栄子・田中春男・山茶花究



「夫婦善哉」より © 東宝

原作では梅田新道、映画は船場の化粧品問屋の妻子持ちの若旦那、放蕩息子の柳吉（森繁）31才に、はっさい（お転婆）な20才の芸妓蝶子（淡島）が一目惚れ。駆け落ち先の熱海で関東大震災に遭遇を皮切りに舞台は大阪に戻って、千日前、法善寺、黒門町、高津神社坂下、飛田、下寺町と、森繁と淡島の恋の織り成す絶妙のコンビネーション。

船場生まれの八住利雄のおいしい大阪弁の味の脚本に出汁を加えて更においしくする森繁のアドリブの連発、負けじと応える淡島のキュートな演技、三浦光雄の流麗なカメラワーク、伊藤熹朔の見事な法善寺のセットの美術、京都生まれの豊田四郎が引き出す上方言葉の艶のある演出、名作、絶品である。

もうすぐ映画館からフィルム上映が消えると伝え聞いた。スクリーンに映し出されるフィルムの艶やかな光と影の芸術を堪能、体感していただきたく白黒スタンダード35mmフィルムにて上映いたします。09年は森繁さん、今年に入って淡島さん、織田作之助を知る無二の友人で詩人・映画評論家の杉山平一さんが亡くなられた。消え行くフィルム上映と共に追悼の意を込めて「夫婦善哉」上映致します。

トークライブ 出演者紹介



玉岡かおる

1956年、兵庫県生まれ。'89年に神戸文学賞受賞作の「夢食い魚のブルーグッドバイ」で作家デビュー。女性の生き方を描いた「そんな紋」「天涯の船」「負けんときーヴォーリス満喜子の種まく日々」などを出版。2008年に「お家さん」で第25回織田作之助賞を受賞。産経新聞の「夕焼けエッセー」の選者をつとめ、日経新聞紙上などのエッセー連載のほか、テレビのコメンテーターやラジオのパーソナリティとしても活躍されている。



辻原 登

1945年、和歌山県生まれ。1985年に作家デビューし、1990年に「村の名前」で芥川賞を受賞。1999年以來「飛べ麒麟」で読売文学賞、「遊動亭円木」で谷崎潤一郎賞、「枯葉の中の青い炎」で川端康成文学賞、「花はさくら木」で大佛次郎賞、「許されざる者」で毎日芸術賞、2011年には「闇の奥」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞、本年春には紫綬褒章を受章。現在、東海大学文学部などの教授として後進の指導もされている。



難波利三

1936年、鳥根県生まれ。1972年「地虫」で第40回オール読物新人賞を受賞し作家デビュー。その後、1984年に「てんのじ村」で直木賞を受賞。人情もの、事件ものなど幅広いジャンルの小説を発表するかたわら、地域に根ざしたエッセーなども多数発表され、2006年には大阪芸術賞を受賞されてテレビや講演、また、「なにわ大賞」選考委員長、大阪女性基金プリムラ大賞選考委員として大阪の文化振興に尽力されている。